議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町2751　電話 371-0423
2012.5.30 №１９０　FAX 371-2469

今年は産業建設委員会に

５月臨時議会で市議会の役員改選

５月15～16日に臨時議会が開かれ、恒例の各役員の改選が行なわれました。議長には矢野仁志氏（あくてぃぶ21）、副議長に水谷進氏（リベラル鈴鹿）、監査委員に池上茂樹氏（公明党）が選出されました。

今回から4つの常任委員会の名称と所管範囲が変更となりました。変更後の委員会は、◎総務（総務・企画財務・消防・防災危機管理など）、◎文教環境（教育・文化振興・環境）、◎生活福祉（保健福祉・生活安全）、◎産業建設（産業振興・土木・都市整備・水道）です。

防災安全特別委員会・国保運営協議会委員も

今年の日本共産党市議団の所属は、以下のとおりです。

●石田　秀三　**産業建設常任委員会・防災安全特別委員会・国民健康保険運営協議会委員**

●森川ヤスエ　**文教環境常任委員会・議会改革特別委員会・鈴鹿亀山地区広域連合議会議員**

６月定例会は６日から７月２日まで

市議会６月定例会の日程は、以下のとおりです。

◎６日　本会議・議案提案説明
◎15日　本会議・議案質疑
◎18日～21日　本会議・一般質問（ＣＮＳでテレビ中継があります。）
◎25日～26日　各常任委員会
◎７月２日　本会議・議案採決

この看板、いつまで立てておく？

市庁舎から立体駐車場へ行く通路に面して、「部落差別をなくそう」と大書した看板が立っています。通路を通る市民のだれにも目に付くこの看板、いつまで立てておくつもりなのでしょう？

市庁舎に向かって立つ看板

看板が立てられたのは25年も前の1987年、当時の辻井良和市議が「非核平和都市宣言」をした市として、市民に啓発することを求めたことに答えて旧市役所の県道沿いに３面の看板塔を設置したものです。「非核平和宣言都市」「世界の願い交通安全」とともに「部落差別をなくそう」を取り付けました。その後、私が「県道側に『部落差別』が見えて、『非核平和』が見えない」と入れ替えを求めたので、今も通路側に向いているのです。

2006年３月議会で私は「特別法もなくなり市としての事業も終わった現在も、こんなスローガンを立てているのは事実に反する。部落差別がいまだに変わらずにあるという宣伝は間違っている」と、撤去を求めましたが、市側は「まだ差別がある」などと言って拒否しました。

それからまた６年がたちましたが、毎日のようにこの通路を通るたびに、この看板が目に入りイヤな気分になります。1970年代から30年以上も行政と市民が努力して同和問題を解決してきた成果を、自ら否定するものだからです。改めて、撤去を求めたいと思います。

住宅リフォーム助成、低調な応募

今年度事業として予算化された「住宅リフォーム助成」、募集期限の５月末になっても市民からの申し込みが、予定の半数にも達していません。29日現在で届いた件数が146件、予定している600件には遠く及びません。

市としては、予算の3000万円に達するまで再募集も行なうようですが、この原因がどこにあるのか、市民への周知ができていないのか、上限５万円という低さが魅力に欠けるのか、早急に分析して対応策を考えることが必要ではないでしょうか。

奈良・吉田寺、安倍文殊院を訪ねて

ぽっくり寺にお参り

５月20日、恒例の共産党鈴鹿市後援会バス旅行で、奈良・斑鳩にある吉田寺、桜井の安倍文殊院と橿原の考古博物館を見学しました。どちらのお寺も７世紀に建立された歴史的な名刹で、本尊の仏像が重文に指定されています。

しかし一般には吉田寺は「ポックリ寺」、安倍文殊院は「ぼけ封じ寺」としても知られていて、我らのツアーも「ぼけずにポックリ」往生するようにとの願掛けを兼ねたものでした。

両寺ともゆっくりと本堂に座って、お坊さんから丁寧に説明や説教を聞いて、仏像をゆっくり眺めてお参りして、心が癒されるひとときを過ごすことができました。さて、「ぼけずにポックリ」の効能は如何に？

商工会議所や農協などを訪問・懇談

５月17日、党市議団と中野たけし北勢地区委員長で鈴鹿農協、鈴鹿商工会議所を訪問、また建設労組、建設業協会、医師会なども回りました。各団体に共産党が発表した「社会保障の充実・財政危機の打開・日本共産党の提言」を届けながら、意見交換をしました。

鈴鹿商工会議所会頭との懇談

商工会議所の会頭は、不況の中で会員が減り続けている、ここに消費税の増税などされたら大変だと語りました。「提言」で消費税に頼らない別の道を示していること、大企業や富裕層に応分の負担を求めることなどを説明しました。

農協の組合長との懇談では、ＴＰＰに反対で共同すること、地産地消や食育、中学校給食、耕作放棄地などの問題で一致できる所が多くありました。

どこの団体でも、民主党政権への失望と怒り、経済の建て直しを切望する声があふれていました。

ずいそう

太陽系第三惑星上の生命体

５月21日の「金環日食」で日本中が大騒ぎとなったが、地球と月と太陽との位置がうまく一直線になって起こる現象が見られるチャンスは、たまたま私たちが、今この日本に住んで居るという偶然から与えられたものである。

数々の偶然の積み重ねによって生まれた人類

眞淳平著「人類が生まれるための12の偶然」（岩波ジュニア新書）では、私たち人類がいま地上に生きていることが、ほとんどあり得ないほどの偶然の重なった結果であることを、分かりやすく解説している。

偶然の①約137億年前に宇宙が誕生した時、重力や電磁気力などの「自然定数」がいい値になった、②46億年前に誕生した太陽の大きさが大き過ぎず、③地球との距離が近すぎず遠すぎずの距離になった、④木星、土星の「巨大惑星」があったので地球に衝突する隕石が少なくすんだ、⑤月という衛星があったので地球の自転速度が遅くなった、⑥地球の大きさも適当で大気が逃げて行かなかった、⑦豊富に液体の水があった、⑧二酸化炭素が海に吸収され、地球の温度上昇を防いだ、⑨地磁気が存在し、危険な放射線を防いだ、⑩オゾン層ができて強力な紫外線を防いだ。

そして40億年ほど前に最初の生命が生まれたが、⑪地球に巨大隕石が衝突した6500万年前に恐竜が絶滅し、代わって哺乳類が繁栄し人類も生まれ、約20万年前に現生人類であるホモ・サピエンスが誕生した。⑫人類が定住と農耕を始めた約１万年前、急に地球の気候が温暖になり現在まで安定して続いていて、文明社会がつくられる保証となった。以上、どれ一つの条件が欠けても、いまの人間はこの世に存在していない、ということになる。

気の遠くなるような話であるが、いま私たちが生きてここに居るというのは、20万年いや何億年も前の祖先から一度も絶えることなく生命が引き継がれてきた結果である。それはこの地上のすべての動物や植物にも共通していて、ずーっと遡っていくと、人間も虫や草と先祖が同じなのである。

目まぐるしく変わる世の中を追っているだけでは、だんだん視野が狭くなってくる。時には宇宙の広がりや地球の長い歴史に思いを馳せ、いま自分が偶然に生命を授かっていることの奇跡を考えるのもいいことではないか。